

教授

杉浦 絹子

■ 学歴

1. 長野県看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了

■ 学位

1. 博士（看護学）

■ 研究分野

1. 母性看護学
2. 助産学
3. 生涯発達看護学

■ 研究キーワード

1. 知的障がい
2. 意思決定
3. 支援
4. 妊産婦
5. 親
6. 育児

■ 研究課題

1. 知的障がいのある女性への周産期保健医療現場における意思決定支援
2. 知的障がいのある妊産婦・親への支援

■ 担当授業科目

1. 母性看護学概論
2. 母性看護学演習
3. ウィメンズヘルス
4. 基礎助産学 1
5. 助産診断・技術学演習VII
6. 助産管理学
7. 助産学研究演習
8. 子育て支援論
9. 人間関係とコミュニケーション
10. キリスト教と生命倫理
11. 助産基礎実習
12. 助産実習 I

13. 助産実習Ⅱ
14. 助産管理実習

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【基礎助産学1】 本科目では、助産の基盤となる知識を教授するとともに、助産に関連する最新トピックスを提示し、グループ討議および全体討議の時間を多く設けた。自分とは異なる意見や考え方を知るとともに自分の考えについて振り返る機会となっていた。口頭およびリアクションペーパーにて質問・意見・感想をフィードバックしてもらい、質問については次の授業時に回答した。
2.	授業科目名【助産学研究演習】 Evidence-based practice の重要性と研究と理論との関係性、助産学研究の目的と意義を教授したうえで、臨床の助産師の倫理審査における仮想事例を題材として、助産実践における課題を臨床研究に繋げる過程および研究倫理について考えるグループ討議および全体討議の時間を設けた。その後、各学生の関心に基づく研究テーマについて研究計画書および研究計画発表会用のスライドを作成し発表してもらった。
3.	授業科目名【母性看護学概論】 本科目は看護師国家試験受験のための必修科目で、2年生前期での開講である。母性看護に関連する最新の統計的データや最新のトピックスに関する動画等視聴覚教材を多く用いた。また、実際の患者の語りや体験談を示すことで、興味・関心を促すとともに、看護の場面を具体的にイメージできるよう工夫した。オンラインホワイトボードを用いて各学生の意見や感想の共有を行った。
4.	授業科目名【ウィメンズヘルス】 本科目は看護学科3、4年生対象の選択科目である。women-centered care、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダーの概念を中心に据え、女性の健康問題に関する最新のトピックスについて視聴覚教材を活用しつつ解説した。そのうえで、どのような支援、対応・対策が求められるかについての各自の意見をオンラインホワイトボードを用いて共有する時間を設けた。
5.	授業科目名【子育て支援論】 PBL として、指定した公共性のある Web 上の情報から乳幼児を育児中の親が抱く子育てに関する疑問や悩みとそれらに対する子育て支援の専門家の回答を調べ、発表・討議する時間を設けた。また、全国の子育てしやすい自治体ランキングで上位にある自治体の地域特性をふまえた子育て支援策について調べ、発表・討議する時間を設けた。
6.	授業科目名【助産管理学実習】 PBL として、実習要項および実習オリエンテーションにおいて事前に提示した助産管理に関する学習項目について各実習施設の実際を実習中に主体的に調べ、発表資料およびスライドを作成して発表し、全体で共有する機会を設けた。

■ 学会における活動

加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1. 2001年3月～現在	日本看護科学学会	

2.	2005年4月～現在	日本母性衛生学会	
3.	2007年4月～現在	日本助産学会	専任査読委員
4.	2013年4月～現在	日本看護倫理学会	
5.	2011年9月～現在	川崎医療福祉学会	
6.	2023年10月～現在	International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities, International Consortium of Research on Parents and Parenting with Disabilities	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表學 会等の名称	概要
(著書)					
1.	2025年2月	助産師基礎 教育テキス ト 助産概 論・母子保健 2025年版	共著	日本看護協会出 版会	杉浦絹子（分担）B5版全 p285中、第 5章2諸外国のお産の歴史 pp.153-158、 3お産と文化 pp.159-177
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025年1月	知的障害の ある親の母 子健康手帳 の利用実態 と改善点の 検討	共著	母性衛生, 64 (4), 378-386	藤澤和子, <u>杉浦絹子</u>
2.	2025年2月	Support Strategies for Mothers with Intellectual Disabilities by Public	共著	Kawasaki Journal of Medical Welfare, 30(2)	<u>Sugiura K</u> and Fujisawa K

		Health Nurses			
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024 年 10 月	知的障害者 にわかりや すい母子健 康手帳(パイ ロット版)の 制作	共著	第 64 回日本母 性衛生学会学術 集会、宮崎	藤澤和子, <u>杉浦絹子</u>
2.	2024 年 10 月	知的障害に 配慮した「赤 ちゃんの泣 きと眠りパ ンフレット (パイロッ ト版)の当事 者による評 価	共著	第 64 回日本母 性衛生学会学術 集会、宮崎	<u>杉浦絹子</u> , 藤澤和子
3.	2024 年 10 月	知的障害に 配慮した「母 乳育児パン フレット(パイ ロット版) の当事者に による評価	共著	第 64 回日本母 性衛生学会学術 集会、宮崎	<u>杉浦絹子</u> , 藤澤和子
4.	2024 年 12 月	知的障がい (知的発達 症)のある 人々の結婚・ 妊娠・出産・ 子育て支援 に関する現 状と課題	共著	第 44 回日本看 護科学学会学術 集会、熊本	<u>杉浦絹子</u> , 藤澤和子, 田中恵美子

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
1.	知的障害のある親への乳幼児育児の支援方法の検討 2021年度～2024年度	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C	○ <u>杉浦絹子</u> , (藤澤和子)	416万
2.	知的障害者の妊娠出産育児支援のためのわかりやすい母子健康手帳と活用ツールの開発 2021年度～2025年度	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C	(○藤澤和子), <u>杉浦絹子</u>	403万
3.	知的障害のある妊産婦の意思決定を支える合理的配慮の検討 2024年度～2027年度	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C	○ <u>杉浦絹子</u> , (藤澤和子)	455万

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2013年～現在	(公社) 全国助産師教育協議会	資格・専門能力委員会委員、委員長
2.	2024年6月～現在	(公社) 福岡県看護協会	地区理事
3.	2024年7月	東京都中央区保健所	令和6年度要支援家庭への支援検討会講師
4.	2025年2月	島根大学医学部附属病院子ども のこころ診療部	令和6年度子どものこころ診療部 研修会「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」講師
5.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在	入学試験会議	委員
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集委員会	委員
3.			